

仕様

(単位 : mm)

形式		NEXTROLLER_EX (ネクストローラー_イーエックス)
寸法	材質	フレーム アルミ
	全幅	560 (シート幅 380)、600 (シート幅 420)、640 (シート幅 460)
	全长	915~1390
	全高	1080 (背上げ)、800 (背下げ)
	シート幅	380・420・460
	座面高さ	490~630
	シート奥行	300・320・340・360・380
	バックサポート高	740
	主輪	16インチ
	キャスター	6インチ
	重量	17Kg (シート幅 380 時)

*製品によっては、一部仕様が異なる場合があります。

アフターサービス

- 万一故障の場合は、お買上の販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保証

- 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- 保証期間終了後の修理については、お買上の販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元



〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号

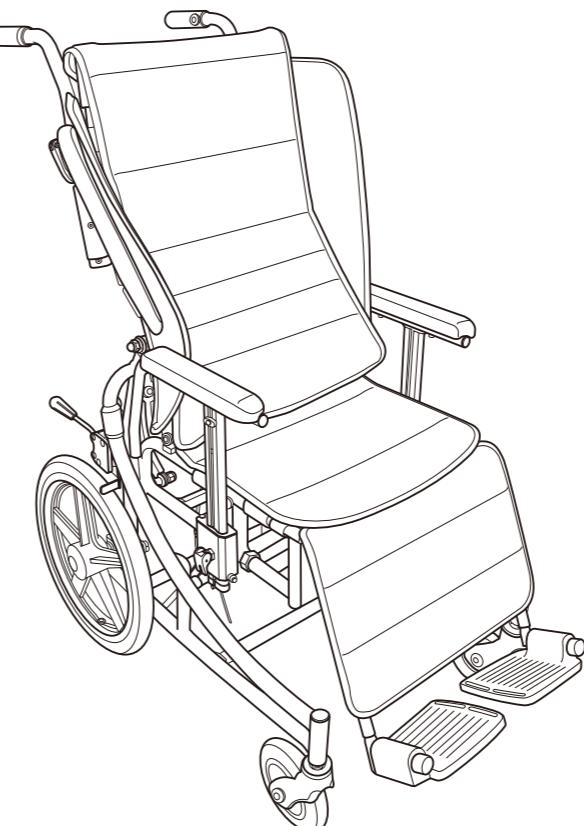
1910-004NEX

NEXTROLLER_EX

ネクストローラー_イーエックス 取扱説明書

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管してください。



*電動ユニット装着の場合は、別冊の電動ユニットメーカーの取扱説明書もあわせてお読みください。

本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

目次

はじめにご確認ください	2
使用目的・特徴	2
本製品について	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
使いかた	7
ブレーキのかけかた	7
バックサポート(背もたれ)の角度を 変える(リクライニング機能)	8
転倒防止装置の取り付け・取り外し	9
アームサポートパッドの高さ調節	10
ショルダーサポートの開閉	10
各部の調節のしかた	11
フット・レッグサポートの前後位置調節	11
駐車用ブレーキの取り付け位置調節	11
フットサポートの高さ調節	12
フット・レッグサポートの上げ下げ (エレベーティング機能)	12
フット・レッグサポートの開閉・取り外し (スイングアウト機能)	13
スロープヘッドサポートの 取り付け・取り外し・高さ調節	14
バックサポートと座面の張り具合調節 (シートタイプ 分割ベルトの場合)	14
手押しハンドルの高さ/向き調節	15
使用上のご注意	16
保守・点検	16
お手入れ・保管について	16
走行上のご注意	17
段差の乗り越えかた	17
段の下りかた	17
困った時には	18
仕様	裏表紙
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙



はじめにご確認ください

本製品購入後、はじめて梱包箱を開けるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- ・車いす本体
- ・工具（スパナ：2本、六角レンチ 5mm・4mm・3mm 各1ヶ）
- ・取扱説明書（本書）
- ・保証書

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。
本製品は手動式の介助用標準型車いすです。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

本製品について

本製品は、標準機能の他に、必要に応じてお選びいただけるオプション機能を用意しております。オプション機能は本製品をご注文時にお選びいただきますので、お車ごとに装備内容が異なります。
本取扱説明書では、オプション機能についての記載内容に マークを付けています。ご自分の車いすに装備されたオプション機能をご確認の上、必要な箇所をお読みください。

安全上の注意

ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

危険

スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

通常は、必ず転倒防止装置が機能するように取り付けて使用してください。
後方へ転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、制動用ブレーキがある場合は、使用してください。

エスカレーター（車いす対応エスカレーター除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）でのご使用は絶対に行わないでください。
転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。

警告

乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかからっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

手押しハンドル、本体フレームに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

制動用ブレーキ（オプション）は、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。
転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートやフット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

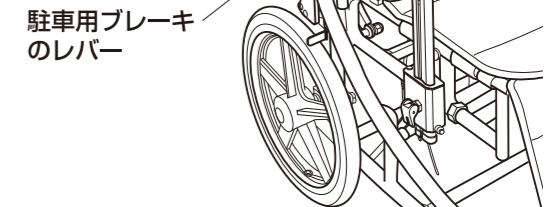
使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるときは、必ずフレームを持ってください。
フレーム以外の部分を持つと、部品が外れて使用者の転倒または落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

駐車用ブレーキ、制動用ブレーキ（オプション）は定期的に安全点検を行ってください。
(期間の目安：1ヵ月に1度)

リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

走行中は、ショルダーサポートの開閉、アームサポートの上げ下げ、フット・レッグサポートの開閉、リクライニング操作等をしないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

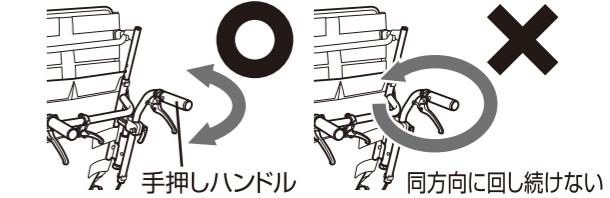
車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒などの事故につながる恐れがあります。

乗り降りの際に上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

タイヤの摩耗に注意してください。
タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

車いすのフレーム構造を変更するような改造はしないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。また、故障の原因となります。

手押しハンドルは、車いす本体の外側を往復するように操作してください。
同方向（右回り、左回り）に回し続けて使用した場合、ブレーキワイヤーがよじれて、制動用ブレーキの動作不良やワイヤーの破損につながる恐れがあります。



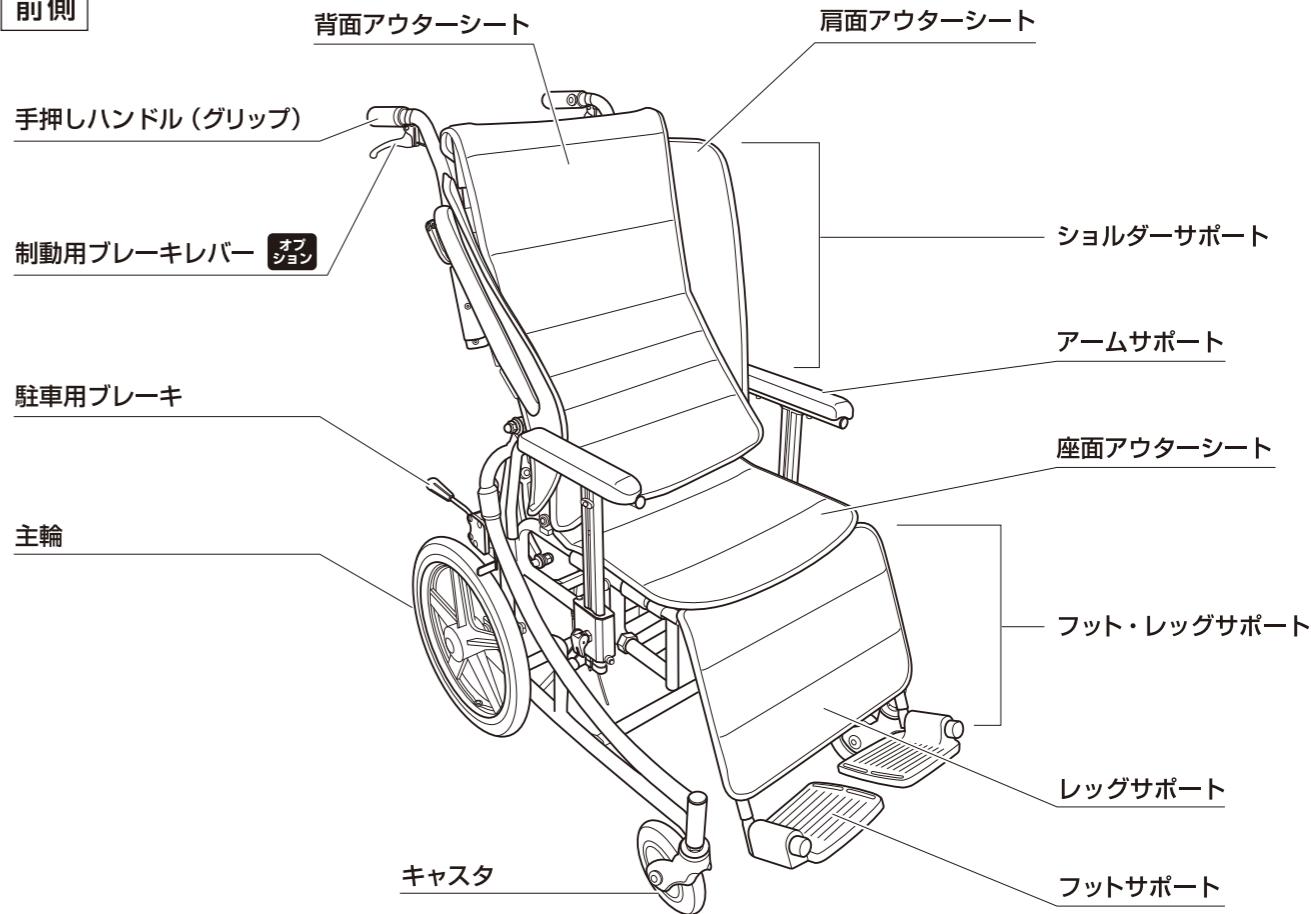
⚠ 注意

- この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。**
 - フレームに最大荷重が記載されている場合は、荷重制限（積載物も含む）を守って使用してください。**
 - リクライニングおよびエレベーティング操作時には、フレームの可動部に指や身体をはさまないよう注意してください。**
 - 走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。**
 - 走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。**
 - 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。**
 - バックサポートを後ろに倒した状態で背面アウターシートには腰かけないでください。
転倒によるけがや、車いすの破損の原因になります。**
 - バックサポートを後ろに倒した状態で、使用者の上体を起こさないでください。
車いすが前に倒れ、事故やけがにつながる恐れがあります。**
 - 暖房器具にタイヤを近づけないでください。
タイヤの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。
破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。**
 - シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。**
 - 介助者は、リクライニング操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。**
- リクライニングワイヤー**
- 面ファスナー
- 初期設定

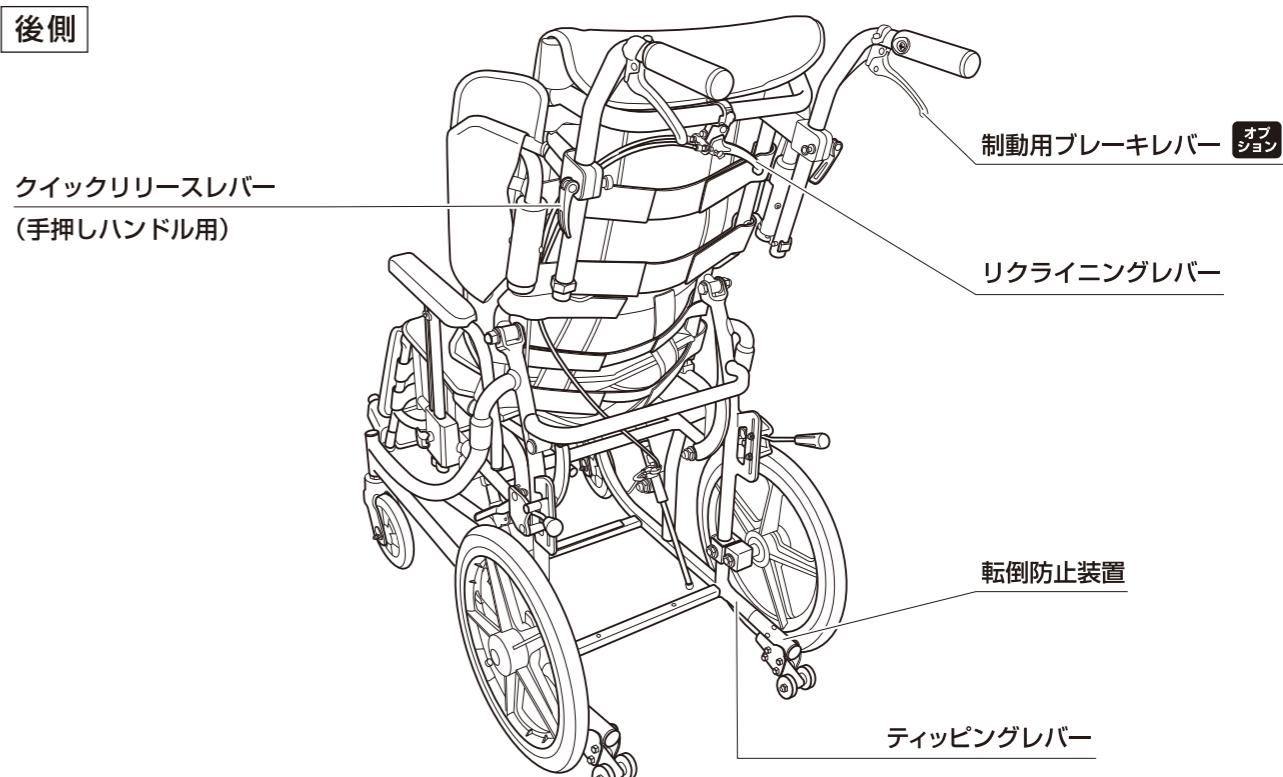
各部のなまえ

下図は標準仕様車です。車いすによっては、装備や形状が異なります。

前側



後側



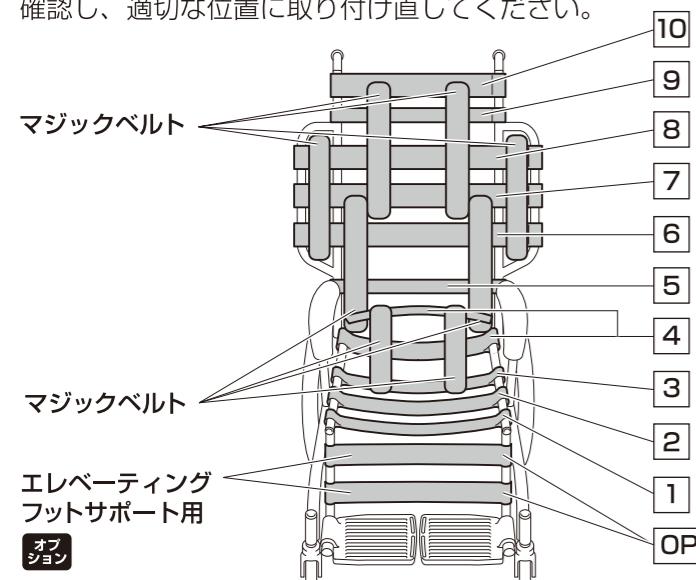
※制動用ブレーキはオプションです。

本製品のシートは、用途に合わせて2つの仕様から選択することができます。

インナーシートのシートセッティング

分割ベルト

インナーベルトには番号タグが付いています。
インナーベルトを取り外したときは、タグの番号を確認し、適切な位置に取り付け直してください。



エレベーティングフットサポート **選択時**、
インナーベルト **オプション** (2本)をレッグサポート部に使用します。

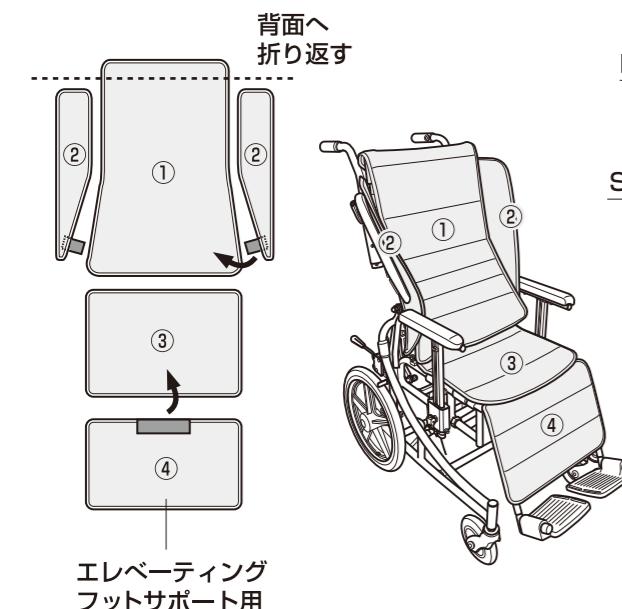
専用アウターシートの取り付け位置

下図に従って、専用アウターシートを車いす本体の正しい位置に取り付けてください。

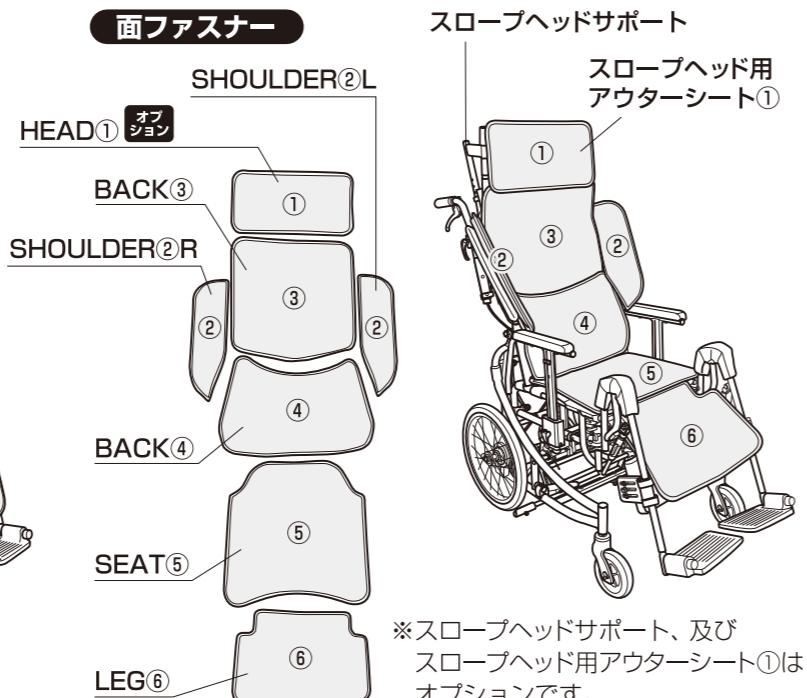
△注意

- パッドとクッション裏側の面ファスナーに糸くず、汚れ等がつくと、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- 作業は必ず駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- 使用者が乗車していない状態で作業してください。

分割ベルト



面ファスナー



※スロープヘッドサポート、及び
スロープヘッド用アウターシート①は
オプションです。

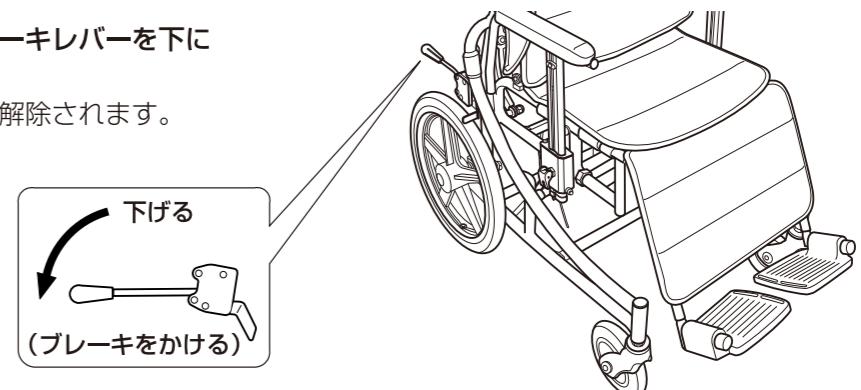
使いかた

ブレーキのかけかた

- | | |
|------------|--|
| △警告 | <ul style="list-style-type: none"> 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかからないといと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。 |
|------------|--|

● 駐車用ブレーキのかけかた

介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを下に押し下げてかけます。
ブレーキレバーを上に引くと解除されます。



● 駐車用フットブレーキのかけかた **オプション**

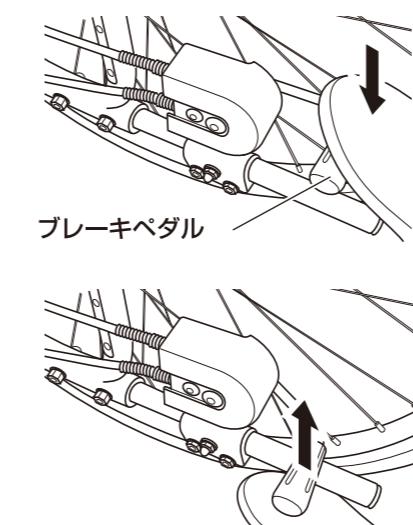
フットブレーキ (独立式フットブレーキ)

△警告

- ペダルの上に乗らないでください。
- 段差乗り越えの際にティッピングレバーと間違えてブレーキペダルを踏まないでください。
- ブレーキペダルにブレーキをかける以上の力を加えると、故障や破損につながる恐れがあります。

△注意

- ブレーキ点検は定期的に行ってください。
- ワイヤーの交換は、安全のため定期的に交換してください。(交換の目安: 1年に1度)



ブレーキのかけかた

左右のブレーキペダルを踏み込みます。
ブレーキペダルを踏み込むとブレーキがかかります。
※車いすが動かないか確認してください。

ブレーキの解除のしかた

左右のブレーキペダルを下側から上方向に引き上げます。
ブレーキペダルを引き上げるとブレーキが解除されます。
※車いすを動かしてブレーキが解除されていることを確認してください。

フットブレーキ（リンク式）**ブレーキのかけかた**

介助者が、後方のペダルを踏み込みます。

ブレーキの解除のしかた

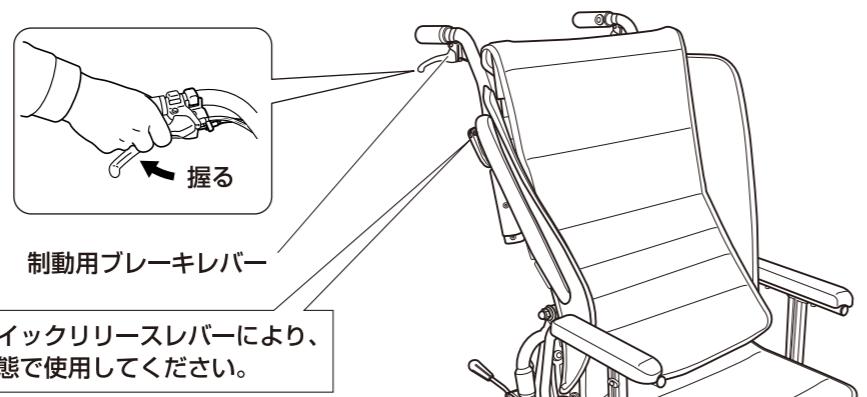
ペダルの下から足で持ち上げて元の位置に戻すと解除されます。

● 制動用ブレーキのかけかた オプション

△危険	・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、制動用ブレーキがある場合は、使用してください。
△警告	ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
△注意	ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。（期間の目安：1年に1度）

介助者が、左右の手押しハンドル下の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。

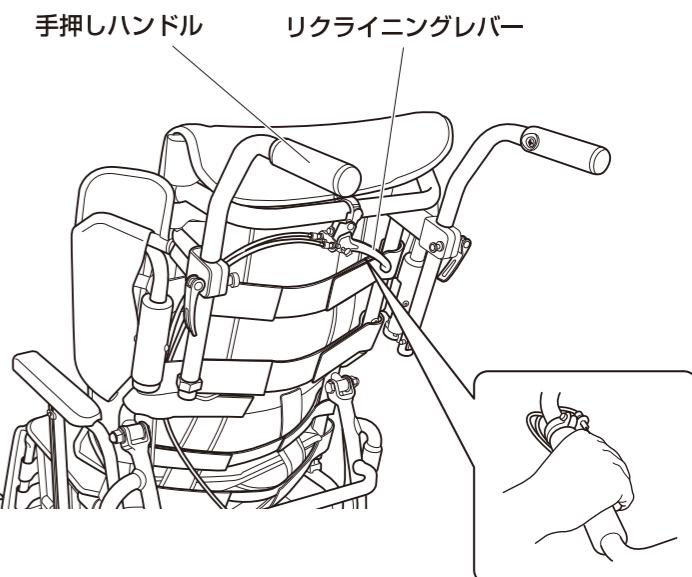
ブレーキレバーを放すと解除されます。

**バックサポート（背もたれ）の角度を変える（リクライニング機能）**

△危険	・バックサポート（背もたれ）を倒した状態のときは、使用者の上体を起こさないでください。車いすの重心バランスが崩れ、転倒、転落する恐れがあります。 ・使用者が上体を起こした状態で、リクライニング操作をしないでください。座面が急激に下がり、事故やけがにつながる恐れがあります。
△注意	・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・フレームの可動部に指や身体をはさまないよう注意してください。 ・両側のアームサポートを上げた状態で操作を行ってください。 ・介助者は、リクライニング操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。 ・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていることを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

- 1** 駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけます。

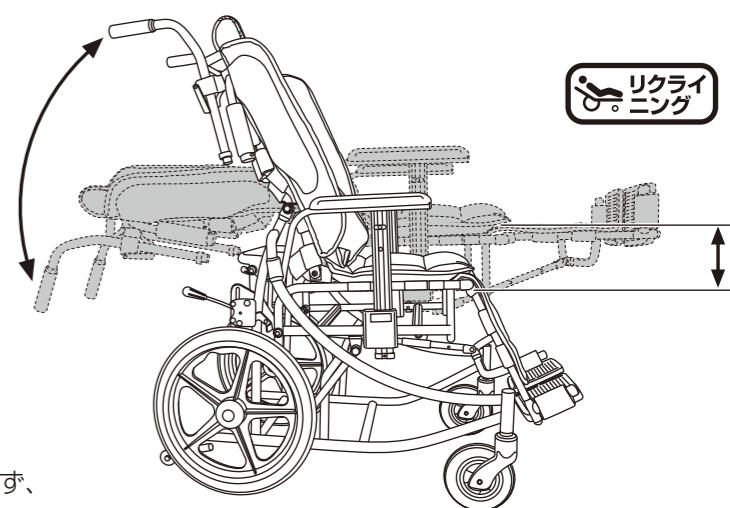
- 2** 片手で手押しハンドルを握り、もう片手でリクライニングレバーを握ります。
(マークが付いた緑色のレバーです。)



- 3** リクライニングレバーを握ったまま、バックサポートの角度を調整します。

*バックサポートの角度は、100~170°度の範囲で調整可能です。

*バックサポートの角度に応じて、座面の高さも変わります。



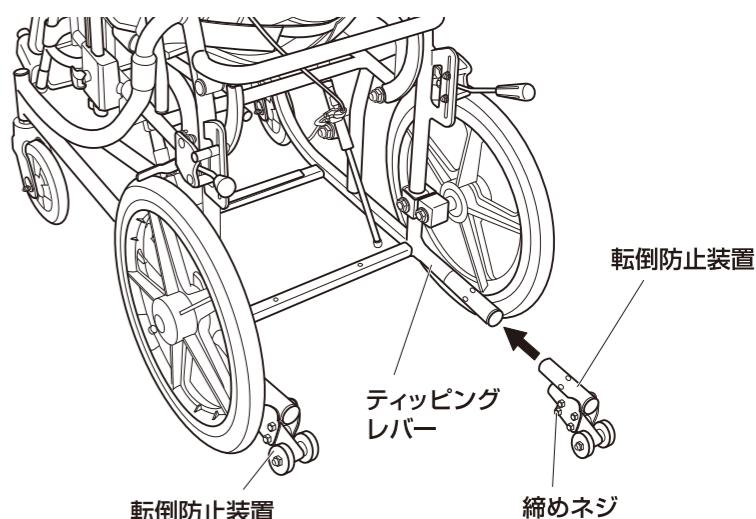
- 4** お好みの角度が決まったら、その位置でバックサポートを止めたまま、レバーを放します。バックサポートの角度が固定されます。

*レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。

転倒防止装置の取り付け・取り外し

△注意	操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
------------	--------------------------------

- 取り付けかた**
- 転倒防止装置（2本）を、図の向きにしてティッピングレバーに差し込み、本体側のロックピンに穴位置を合わせてセットします。



アームサポートパッドの高さ調節

乗り降りの際にアームサポートがじゃまにならないように、アームサポートパッドを下げることができます。

△注意

- ・高さ調節は、使用者の身体および衣服がアームサポートよりも内側にあることを確認してから行ってください。
- ・フレームの可動部には身体および衣服をはさまないように注意してください。
- ・高さ調節をした後は、必ずアームサポートがロックされていることを確認してください。
- ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

1 駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけます。

2 アームサポートパッドを支えながら、アームサポート外側の黒いレバーを引き上げてロックを解除します。

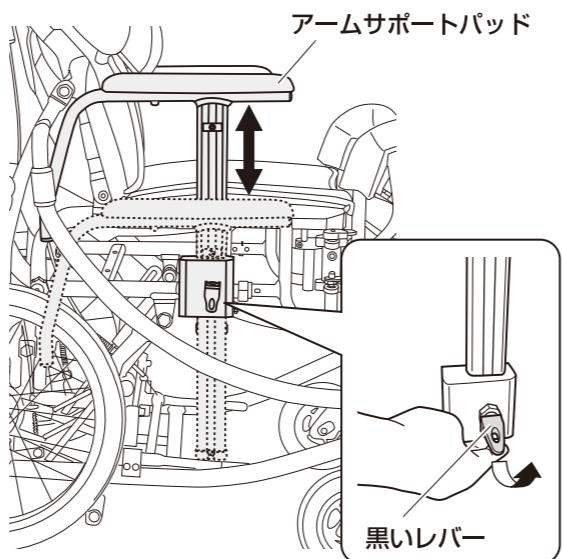
3 アームサポートパッドを上下させて高さを調節します。

4 調節を終えたら、レバーを下に倒してロックし、アームサポートパッドを固定します。

* 調節後、アームサポートがしっかりと固定されていることを確認してください。

△注意

- レバーを解除しているときは、アームサポートが下がる恐れがあります。その際、アームサポートと車いすのフレームの間に指をはさまないよう注意してください。



ショルダーサポートの開閉

ベッド等への移乗の際、ショルダーサポートを倒すことで、横方向への移乗介助がスムーズに行えます。

△注意

- 移乗介助の際は、駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけてから行ってください。

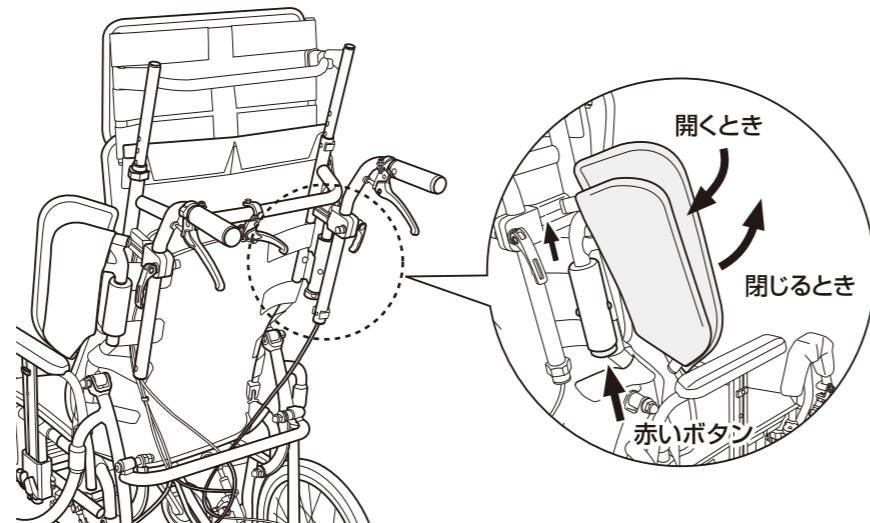
●開きかた

横方向への移乗介助を行う際には、ショルダーサポート背面にある赤いボタンを押し上げながら、ショルダーサポートを後方（背面）へ倒します。

●閉じかた

ショルダーサポートを前方（前面）へ起こします。

* 乗車時は、ショルダーサポートがロックされていることを確認してください。



各部の調節のしかた

△警告 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。

フット・レッグサポートの前後位置調節

使用者に合わせて、フット・レッグサポートの前後位置および座面の奥行きを調節することができます。ロックピンを取り付ける穴を変えることにより、5段階に調節することができます。

1 駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけます。

4 フット・レッグサポートを前後に動かしロックピンを取り付ける適切な穴の位置を決めます。

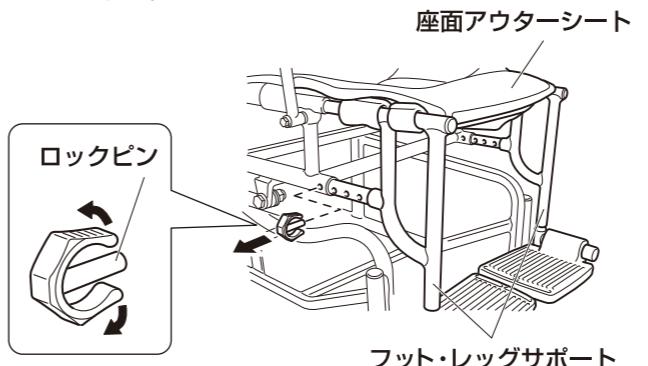
2 <インナーシート 分割ベルトの場合>

座面アウターシートとマジックベルトを取り外します。

<シートタイプ 面ファスナーの場合>
座面アウターシートを取り外し座面インナーシートの面ファスナーをはがします。

3 ロックピンを抜き取ります。

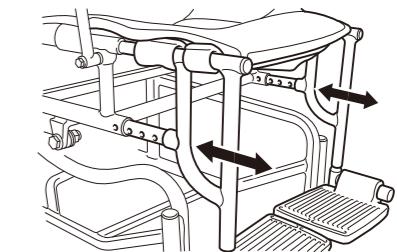
* ロックピンを外側に押しながら抜き取ってください。



5 ロックピンを穴に通し、完全にロックされるまで差し込みます。

6 <インナーシート 分割ベルトの場合>
マジックベルトの貼付け位置を確認してからマジックベルトを貼り付け、最後にアウターシートを取り付けます。
インナーベルトは、必要に応じて取付け位置を変えてください。

<シートタイプ 面ファスナーの場合>
座面インナーシートの面ファスナーを貼り付け、アウターシートを取り付けます。



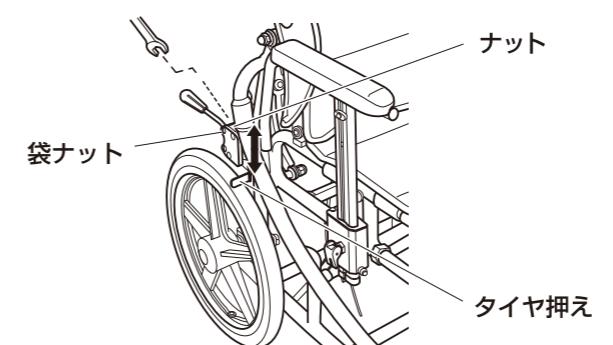
駐車用ブレーキの取り付け位置調節

ブレーキの効き具合を随時点検し、効きが悪い場合は、ブレーキの取り付け位置を調節してください。

* 作業しない側の駐車用ブレーキのみかけて調節を行ってください。

1 駐車用ブレーキの袋ナットをゆるめます。

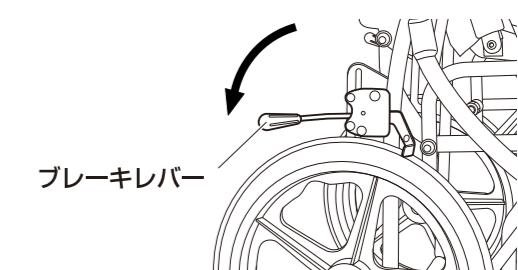
2 駐車用ブレーキをかけたときに、タイヤに駐車用ブレーキのタイヤ押さえが当たり、主輪がしっかりと止まる位置に調節します。



3 袋ナットで固定します。

* 駐車用ブレーキがガタつかずしっかりと固定されていることを確認してください。

4 ブレーキレバーを下げて駐車用ブレーキをかけ、主輪がしっかりと止まる位置を確認します。



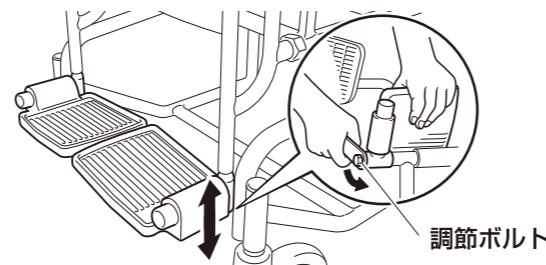
* 主輪がしっかりと止まらない場合、または駐車用ブレーキが効きすぎる場合は、再度調節してください。

* 反対側も同様に調節してください。

フットサポートの高さ調節

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

- 1 駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フットサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。
- 3 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。
- 4 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。



*反対側も同様に調節してください。
*フットサポートが回転せず、しっかりと固定されていることを確認してください。

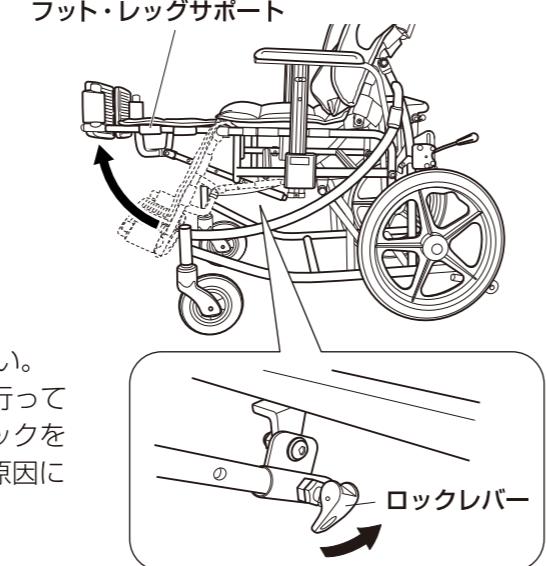
フット・レッグサポートの上げ下げ（エレベーティング機能）

エレベーティングフットサポート（左右連結）オプション

フット・レッグサポートの上げ下げを行うことができます。脚を持ち上げたいときなどに使用します。

- 1 駐車用ブレーキレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 片手でフット・レッグサポートを支えながら、もう片手でロックレバーを引いてロックを解除します。
- 3 フット・レッグサポートを上げます（または下げます。）
- 4 ロックレバーを押し倒して、フット・レッグサポートを位置に合わせてロックします。

*フット・レッグサポートが確実に固定されたことを確認してください。
*ロックレバーの操作は、必ずフット・レッグサポートを支えながら行ってください。フット・レッグサポートを支えずに、上がった状態でロックを解除すると、フット・レッグサポートが急激に下がるため、けがの原因になることがあります。

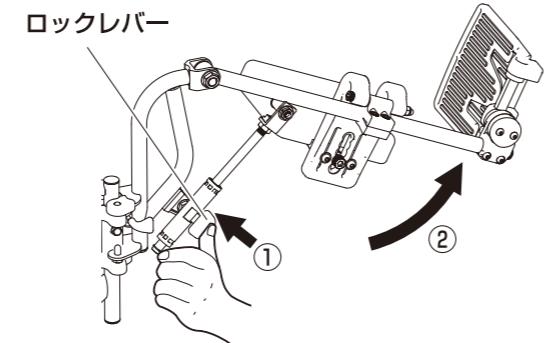


スイングアウト + エルゴエレベーティングオプション

フット・レッグサポートの角度をお好みに合わせて変えることができます。脚を持ち上げたいときや、ひざ関節の曲がる範囲が限られている場合などに便利です。

● 角度の変えかた

- 1 駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけます。
 - 2 ロックレバーを上に押し込んでロックを解除(①)した状態で、フット・レッグサポートを引き上げて角度を調節します(②)。
 - 3 ロックレバーを離すと、フット・レッグサポートはロックされます。
- *フット・レッグサポートが回転せず、しっかりと固定されていることを確認してください。
*反対側も同様に作業を行ってください。



*マルチフットサポートはオプションです。

フット・レッグサポートの開閉・取り外し（スイングアウト機能）

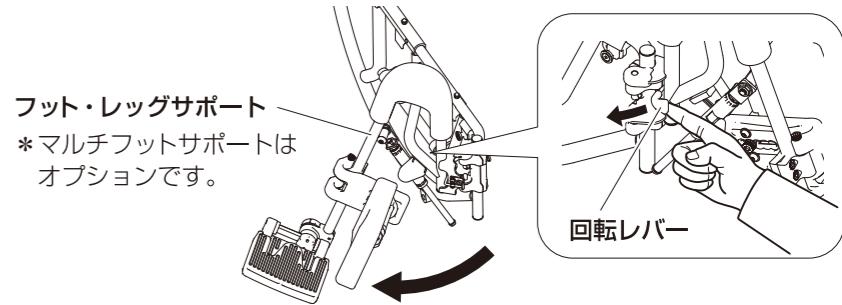
スイングアウト + エルゴエレベーティングオプション

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

- | | |
|--|--|
| ⚠️ 警告 | <ul style="list-style-type: none"> ・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけてから行ってください。 ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。 ・フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。事故やけがにつながる恐れがあります。 ・フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認してください。事故やけがにつながる恐れがあります。 ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。けがをする恐れがあります。 ・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛けないように注意してください。転倒など、事故やけがにつながる恐れがあります。 |
|--|--|

● 開きかた

- 1 駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけます。
- 2 回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



● 閉じかた

⚠️ 注意 フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

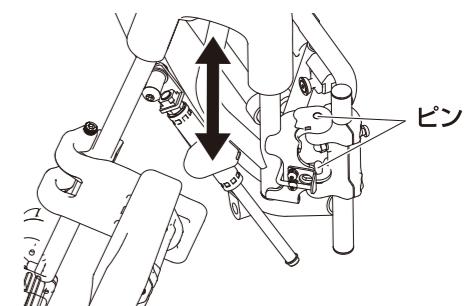
- 1 駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけます。
- 2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

● 取り外しかた

- 1 駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけます。
- 2 フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

- 1 駐車用ブレーキを操作し、両輪にブレーキをかけます。
- 2 車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴(2箇所)を合わせてはめ込みます。
- 3 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。



*フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。
*フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。
*フット・レッグサポートを取り付け終えたら、レッグサポートシートを元の位置に戻してください。

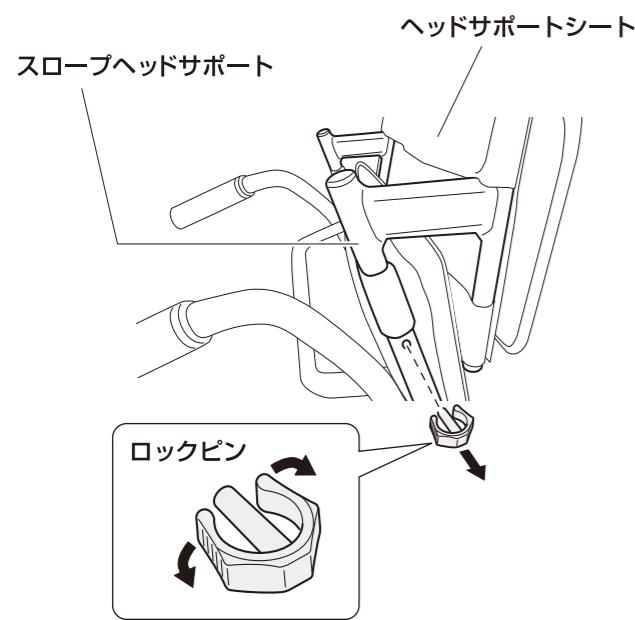
スロープヘッドサポートの取り付け・取り外し・高さ調節 [オプション]

使用者に合わせて、スロープヘッドサポートの高さを調節することができます。ロックピンを取り付ける穴を変えることにより、4段階に調節することができます。

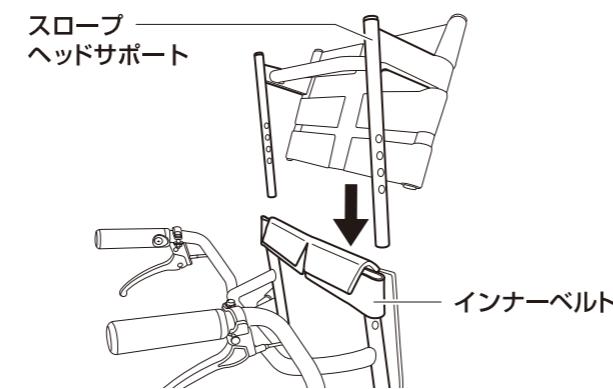
- 駐車用ブレーキレバーを下げる、両輪にブレーキをかけます。

- ロックピンを抜き取ります。

*ロックピンを外側に押しながら抜き取ってください。



- 背インナーシートを起こし、本体フレームの背パイプ上端に、背インナーシート最上部のインナーベルトを巻き付けて、スロープヘッドサポートを本体側に差し込みます。



- スロープヘッドサポートを上下に動かし、ロックピンを取り付ける適切な穴の位置を決めます。
- ロックピンを穴に通し、完全にロックされるまで差し込みます。

*ロックピンにより、しっかりと固定されていることを確認してください。

バックサポートと座面の張り具合調節（シートタイプ 分割ベルトの場合）

インナーベルトの張り具合を隨時チェックし、必要に応じて調節してください。

*アウターシートとマジックベルトの取付位置については、6ページの図を参照してください。

- 駐車用ブレーキレバーを下げる、両輪のブレーキをかけます。

- アウターシートとマジックベルトを取り外します。

- 調節する部位のインナーベルトのファスナーをはがして、張り具合を調節した後、もう一度ファスナーをしっかりと貼り合せます。

*手でインナーベルトを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。

- マジックベルトとアウターシートを取り付けます。

*リクライニングワイヤーは、背面インナーシートのマジックベルト中央2本で束ねてください。（初期設定）



手押しハンドルの高さ / 向き調節

介助者に合わせて、手押しハンドルの高さと向きを調整することができます。

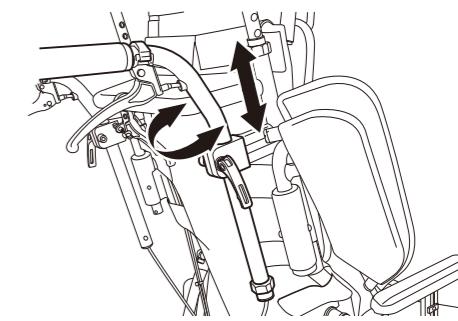
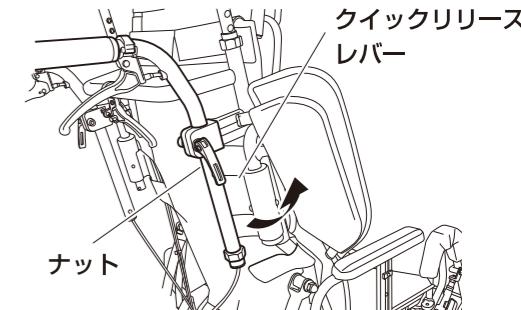
- 駐車用ブレーキレバーを下げる、両輪のブレーキをかけます。

- クイックリリースレバーを引き起こしてロックを解除します。

- 手押しハンドルの高さと向きを調節します。

- 調節を終えたら、クイックリリースレバーを倒してロックします。

- 反対側の手押しハンドルも、同様に調節します。



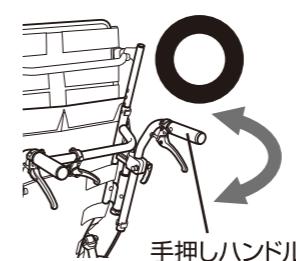
*クイックリリースレバーの締め付けがゆるすぎる、またはきつすぎる場合は、レバーの反対側にあるナットを外し、レバーを引き起こした状態で時計回り、または反時計回りに回して調節してください。

*調節した後は、必ず手押しハンドルが回転しないことを確認してください。

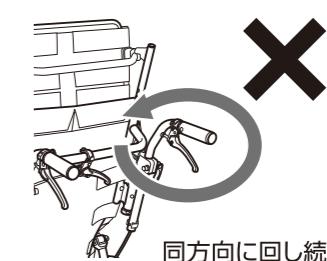
*介助者が車いすを押すときは、必ずクイックリリースレバーがロックされていることを確認してから行ってください。事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠️ 警告 手押しハンドルは、車いす本体の外側を往復するように操作してください。

同方向（右回り、左回り）に回し続けて使用した場合、ブレーキワイヤーがよじれて、制動用ブレーキの動作不良やワイヤーの破損につながる恐れがあります。



手押しハンドル



同方向に回し続けない

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

点検の結果、作動不良や違和感を感じたときは、すぐに使用を止め、お買上げの販売店または、最寄りの弊社支店、営業所へご連絡ください。

- 使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。(地上より 50mm 以上あげてください。)
- 車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

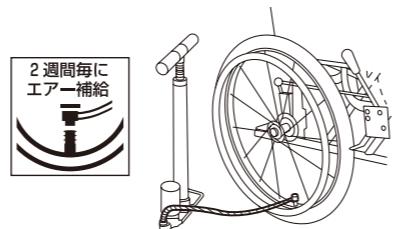
● 各調整部分が固定されていることの確認

各調整部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

△注意 交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

- それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。
- タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくとも空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。(タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。)
- ハイポリマータイヤは、表面に溝がないひび割れがみられる状態で使用を続けますと、タイヤ内部に水分が侵食して加水分解を起こし、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。



消耗品・交換部品

品名	交換時期
主輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスター	表面の摩耗が著しいとき。しっかりロックしても車輪ががたつくとき。

品名	交換時期
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- 水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- 錆を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

● シートのお手入れ

- シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
- 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

△注意 シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

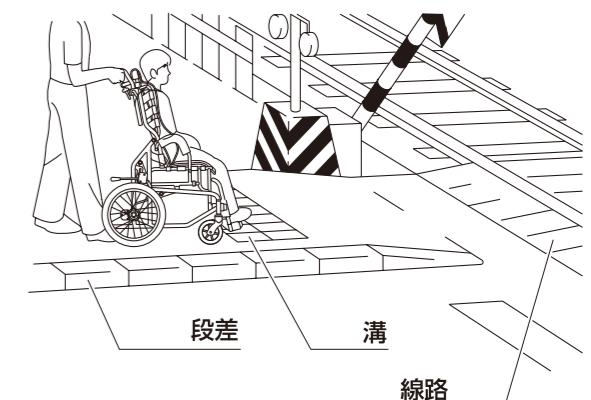
● 保管・収納について

錆を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

△注意 車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。

走行上のご注意

- 車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、キャスターのはさみ込みには充分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- エスカレーター(車いす対応エスカレーターは除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)での使用は、絶対に行わないでください。
- 公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

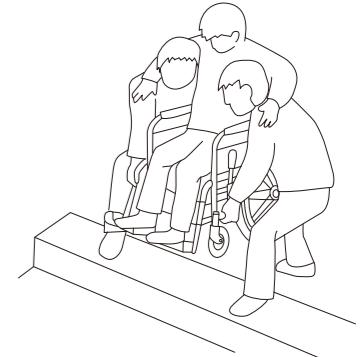


段差の乗り越えかた

本製品は、キャスターが浮き上がりにくい特性を持った構造です。

通常の車いすのように手押しハンドルを引くようにしてキャスターを持ち上げようとすると、手押しハンドルに過度な負荷が掛かり破損・故障の原因となる恐れがあります。本製品に使用者を乗せたまま段差を乗り越えるときは、2人以上で行い、車いすの水平を保ちながらフレーム下部を両側から持ち上げるようにしてください。

△警告 車いすを持ち上げる際、持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、フット・レッグサポート、フットサポート、手押しハンドルなどは持たないでください。



段の下りかた

本製品に使用者を乗せたまま段差を下りるときは、2人以上で行い、車いすの水平を保ちながらフレーム下部を両側から持ち上げるようにしてください。

困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症 状	確認点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	主輪の空気圧の不足、また左右の空気圧に差があるませんか。	左右の主輪を適正な空気圧に調整してください。
	キャスターの回転に左右差がありませんか。キャスター軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	キャスター、主輪の計4輪がきちんと接地していますか。	シートの角度調節を元の位置に戻すなど、左右にずれがないよう調節してください。 改善が見られない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駐車用ブレーキが効かない。	主輪の空気圧は適正ですか。	主輪を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	主輪のタイヤは磨耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが主輪にきちんと当たってますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かつたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。

症 状	確認点	対 処
	主輪に空気がはいらない、すぐにぬける。	適正な空気圧で補充しますか。
	トップナット(コア押さえ、バルブナット、バルブスリーブ)が緩んでいませんか。	締め付けてください。
	タイヤチューブのパンク、バルブの消耗はしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	制動用ブレーキレバーを放しても車いすが動かない。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは主輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	駐車用ブレーキ、もしくは足踏みブレーキがかけられた(ロックされた)状態になっていますか。 ※足踏みブレーキ装着車の場合	駐車用ブレーキと足踏みブレーキの両方をそれぞれ解除してください。本製品は駐車用ブレーキと足踏みブレーキが独立した(連動していない)構造になっています。
	異音がする。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは主輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・磨耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
	リクライニング(ティルト)の動きが悪い。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かつたりしていませんか。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。